

<p>2 事業の目的と概要</p>	
<p>(1) 事業概要</p>	<p>事業対象国エチオピア南部諸民族州は、僻地に多くの絶対的貧困者が居住し貧困課題解決が難しい州の一つである。事業対象地のオイダ地区では、女性は水汲みのために多くの時間と労力を奪われ、就労する時間、機会、知識もなく貧しい生活を送っている。本事業では水供給設備設置と女性の自立支援事業を実施し、女性に収入を得る機会を提供し、収入向上を図る。活動では、動力を利用しない「住民参加型水供給設備」を設置し、水汲みに時間を費やしていた女性を水汲みの労働から解放する。同じ給水所を利用する貧困女性 20 名を女性グループ (Self Help Group) として 45 のグループを組織化する。研修を通じて女性グループが積立貯蓄を開始し、積立貯蓄を元手に「収入創出活動」を展開する。女性グループを束ねる「SHG 協同組合」を設立し、女性グループの活動に必要な情報やサービスを提供し横のつながりを構築する。</p> <hr/> <p><i>Our proposed project sites in Southern Ethiopia are situated in a region with the highest rates of absolute poverty. In the District of Oyda, women are robbed of a large proportion of their time everyday by the task of having to fetch water. Thus, they are effectively trapped in the poverty cycle, deprived of the time, opportunity and knowledge to generate and increase their incomes. Through this project, water supply facilities will be installed and a women empowerment program will be implemented to provide them with opportunities to earn and improve their incomes. This intervention would include the installation of a gravity fed 'participatory water supply system' to free women from the backbreaking and time consuming work of fetching water. The women who will benefit from the water supply facilities will be organized into 45 Self-Help Groups (SHG) of about 20 women per group. With the training provided to them, they will start savings, which will serve as the seed money for their income generating activities. Furthermore, HOPE will furnish support to establish a Cluster-Level Association (CLA) that will provide assistance and connect the SHG groups with each other.</i></p>
<p>(2) 事業の必要性と背景</p>	<p>(ア) エチオピア連邦民主共和国(以下、エチオピア)の国土は日本の約3倍、2015年に1億人を超えナイジェリアに次ぐアフリカ第2位の人口規模をもつ。政府は、2000年に貧困削減計画(PASDEP)を策定し、その後も経済計画を実施している。経済(GDP)成長率は過去10年間において6%から10%超と高い経済成長を続け、貧困率は29.6%(世界銀行2011年)から23.5%(世界銀行2016年)と減少した。しかし一人当たりのGNIは850米ドル(世界銀行2019年)と未だ国連が定める「最貧国」49カ国のうちの一つである。人口の8割は農村地区に居住し、その25.6%は国の定める貧困ライン以下で生活をしている。(Ethiopia Poverty Assessment, 世界銀行2020) 本事業対象の南部諸民族州は、約2000万人、多数の少数民族で構成されている。南部諸民族州における貧困率29.6%(2011年)から20.7%(2016年)と減少しているものの、そのうちの24%は絶対的貧困に状態ある。その中の90.4%が僻地に居住しているため貧困課題解決が難しい。(Ethiopia Poverty Assessment, 世界銀行2020)</p> <p>本事業対象地のオイダ地区では住民は自給自足に近い生活をしているものの、食料購入、子どもの就学費用、診察料など現金収入がなければ生活が成り立たない。そのため、多くの世帯で男性は街へ出稼ぎにいき、女性が家族の世話をしている。また、ジェンダー不平等の社会的文化的背景から「水汲み」の仕事を女性と子どもが担っている。高低差の激しい道を往復1時間超歩き1日に2~3回行うため、多くの時間と労力が奪われ</p>

ている。近隣の街へ出稼ぎに行った男性は、日雇いの仕事をする事が多く毎月安定した金額を家族に送ることができない。女性は収入を得るための時間、機会、知識もなく、限られた収入または収入のない中で家族を養い、生活の質は非常に低い状態である。

(イ)本事業では当団体及びホープ・ネットワークもこれまで事業を実施していないオイダ地区を事業地として選定した。標高 2000m から 3000m と高くアクセスも良くないため、現地行政機関や他の支援団体による水供給設備設置や女性を対象とした支援がなされていない。現地行政機関との協議の結果、18 郡あるオイダ地区のなかで道路整備がなされていないため今後も支援団体や行政機関による支援の目処が立たないベレタ郡、バガラ郡の 2 郡、幹線道路があり比較的都市へのアクセスがよいウバ・ヤンバラ郡とカレ・マロ郡を対象とし近隣郡への波及効果が高い 2 郡を選定した。

(ウ)本事業期間は 2 年 10 ヶ月、2021 年 2 月より事業を開始した。5 月に事業対象者 900 名の女性の 6 割に対してベースライン調査を実施し、538 名から回答があった。対象女性の特色としては、既婚者は 90% (残りは未亡人など)、子どもは平均で 3~4 人おり、半数が就学したことがない (識字率 15%、全体の 1/5 は字が読める)。また、事業対象者の 95%は専業主婦で収入がなく、夫が農業で年間 500~1000 ブルの収入を得ている人が 9 割をしめる。貯蓄がある家庭は 1%、銀行口座を保有している家庭は誰もいなかった。ローンを経験したことがある人は 1%であるが、イクワブ (Iqub¹) を利用したことがある人は 20%いた。仕事に就くことができない理由としては、「水汲みで忙しい」「就業の機会がない」「子育てで忙しい」ことを挙げている女性がほとんどであった。水汲みにかかる時間は 1~2 時間と回答した人が 4 割、30 分から 1 時間と答えた人が 3 割であった。1 日に 2 回水汲みする女性が 4 割いた。また、ジェンダーに関しては、男性がいる会議で発言したことがある女性は 2%、8 割の人が会議に参加したことがなく、コミュニティでリーダーシップをとったことがある女性は誰もいなかった。93%の女性が男性から差別を受けており、その内容は身体的暴力が 40%、言葉による暴力が 40%であった。また、世帯における財政的危機の対処法としては、「食事の回数を 2 回から 1 回に減らす」「親戚からお金を借りる」と答えた人がほとんどであった。以上の結果から、対象女性は経済的に非常に貧しく脆弱性が高い。収入を得るための知識と機会もない。また、ジェンダー平等が非常に低く、金融資産にアクセスすることも非常に困難であることが明らかになった。調査結果を受けて、水供給事業の運営を行う水・衛生委員会に女性を参画させたり、女性が収入を得ることに對して男性の理解と協力を促進させることも注視して事業を展開し、2 年次では女性が収入を継続的に得ることになったことに対する男性側の反応も確認していきたい。また新型コロナに対する予防について知識がなく対策も取られていないことも判明したため、予防対策を取り入れて研修を実施し、2 年次でも同様に継続していく。

中間報告書で記載通り、1 年次の事業進捗はほぼ計画通りである。セメントの供給不足により水供給設備工事に遅延があったものの、仕入れ先が見つかったことからウバ・ヤンバラ郡とカレ・マロ郡工事を進めていきたい。また、4 郡全てにおいて女性グループ (SHG) が組織化され、5 月末から研修を開始した。ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡は、1 年次に実施する予定の 47 日分の研修のうち、22 日分実施した。事業後半で残りの研修を実施する予定である。バガラ郡及びベレタ郡は 17 日分の研修を全て終え、事業後半は当団体で住民から雇用したコミュニティ委員が各女性グループをフォローする予定である。女性グループによる貯蓄も開始され、6 月末時点での貯蓄状況 (2 ヶ月分) は、ウバ・ヤンバラ郡が 800 ブル (週 5 ブル/人)、カレ・マロ郡が 900 ブル (週

¹ イクワブ (Iqub) : エチオピア の伝統的なファイナンスシステム。フォーマルな金融にアクセスできない人々が毎週決められた少額のお金を出し合い、集まった合計金額を毎週一人利用できるシステム。

5 ブル/人)、ベレタ郡 500 ブル(週 3.75 ブル/人)、バガラ郡 640 ブル(週 4 ブル/人)と順調に行われている。

エチオピアでは新型コロナワクチン接種も高齢者や基礎疾患のある人からの接種が開始されている。現地スタッフ 1 名のみアディスにて予防接種を終えたが、それ以外の現地スタッフは未接種、及び接種の目処は現在不明である。現在、駐在員 2 名は日本にて事業を遠隔に行っており、在エチオピア日本大使館の担当官との連絡や新型コロナに関係するオンライン会議に参加し現地の情報収集に努めている。現地スタッフへはメール及び電話による細かい指示に加え、Zoomにて事業地にいる現地スタッフとも全体会議を行い管理している。駐在員 2 名とも 8 月にワクチン接種が終了する予定であり、9 月下旬に事業地に戻る予定である。

●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性

本事業目標は、SDGsの目標1「あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」目標5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントをはかる」及び目標6「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」と合致する。

目標1:ターゲット1.1「2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々の定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる」、ターゲット1.2「2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる」ターゲット1.4「2030年までに、貧困層および貧弱層をはじめ、全ての男性及び女性の経済的資源に対する同等の権利、並びに基本的サービス、オーナーシップ、及び土地その他の財産、相続財産、天然資源、適切な新規術、およびマイクロファイナンスを含む金融サービスへの管理を確保する。

目標5:ターゲット5.1「女性に対し、経済的資源に対する同等の権利、並びに各法に従い、オーナーシップ、及び土地その他の財産、金融サービス、相続財産、天然資源に対するアクセスを与えるための改革に着手する。」、ターゲット5.5「政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参加及び平等なリーダーシップの機会を確保する。」

ジェンダー平等	環境援助	参加型開発／ 良い統治	貿易開発	母子保健	防災
2:主要目標	0:目標外	2:主要目標	0:目標外	2:主要目標	0:目標外
栄養	障害者	生物多様性	気候変動(緩和)	気候変動(適応)	砂漠化
0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外

●外務省の国別開発協力方針との関連性

日本政府は対エチオピア連邦民主共和国国別援助方針の重点分野<中目標>(3)「インフラ開発」において、「上下水道といったインフラ整備に資する協力を実施する」と述べており、本事業も中目標に寄与する事業である。また留意事項の「ジェンダーについては、案件形成に際して女性の能力向上や活躍を支援するための要素を検討する」に関して、その要素を取り入れた事業である。

●「T I C A D V I および T I C A D 7 における我が国取組」との関連性

「T I C A D V I における我が国取組」において「経済の多角化・産業化」に関し、「女性起業家を対象にしたマイクロクレジット」を民間セクターへ資金供給を実施している。同時に「強靱な保健システムの促進」も掲げており、本事業はどちらにも合致する。また、「T I C A D 7 における日本の取組」の3つの柱のうち、一つ目の柱である「経済」の「産業人材の育成」、「女性の起業家支援」に合致する。また、二つ目の柱である「社会」の「人間の安全保障と SDGs の実現」における「UHC 拡大とアフリカ健康構想」に水事業は寄与する。

(3) 上位目標	事業対象の貧困女性及びその家族の生活の質が向上する。
(4) プロジェクト目標 (今期事業達成目標)	<p>事業対象の貧困女性が女性グループの活動により収入を得る機会をもち、収入が向上する。</p> <p>-----</p> <p>4 郡の女性グループ(45 グループ)において積立貯蓄の増加により、メンバー個人の収入創出活動に対して貸し出しが可能になり、メンバー全員が収入を得る機会を持つことができる。</p>
(5) 活動内容	<p>本事業は、事業期間2年10ヶ月、オイダ地区4郡で主に以下の活動を実施する。①事業の実施体制を構築する、②収入創出活動に従事する時間を確保するため住民参加型水供給設備設置を行う、③貧困女性の収入創出活動実施に必要な研修及びフォローを行う。④事業終了後も女性グループのみで収入創出活動が継続できるよう「SHG協同組合」を設立、現地行政機関を招聘したセミナーを実施し女性グループの活動に対する理解と協力を得る。</p> <p>当初計画からの変更は、3年次に予定していた④の活動「SHG協同組合」の設立を2年次に実施することである。「SHG協同組合」の組織化後当団体がフォローする時間を計画より長くし、「SHG協同組合」を強化させるためである。「SHG協同組合」が強化されることにより、各郡の女性グループの活動を補佐し、活発化させる。具体的な事業活動は以下の通り。</p> <p>事業の実施体制を構築するために、各郡において住民全体集会を開催し事業の説明を実施する。1グループ約20名の貧困女性を女性グループ (Self Help Group, SHG) として組織化する。女性グループの活動をフォローする「コミュニティ委員」を住民から選出し、ホープが事業期間内委託する。水供給設備設の運営を担う「水・衛生委員会」、修理補修を行う「メンテナンスチーム」を住民から選出する。短期研修を実施し人材を育成する。</p> <p>住民参加型水供給設備は、高地にある源泉を保護し電力を使わずに高低差のみでパイプラインで貯水タンクに送水、水圧を高めて各給水所へ送る。工事では住民が資材運搬用の道路を整備、資材の運搬、パイプの溝ほり、セメント作りなどを担い住民のオーナーシップを高める。給水所近隣住民で構成された女性グループが給水所の日常管理の責任を担う。供給設備維持管理に関わる男性も参加する会議での発言、活動に参加することでコミュニティーにおける女性に対する差別が軽減される。設置後、4郡合同事業評価会を実施し課題や意見交換を行い、住民のみで維持管理がなされるようにする。女性が継続的に短時間且つ少ない労力で水汲みが行えるようになり、コミュニティーの女性の活動に対する理解が促進され、収入創出活動に従事できる環境が整う。</p> <p>女性グループの収入創出活動事業では、ホープスタッフが女性グループに収入創出活動に必要な50日分の研修を半年～12ヶ月かけて実施する。研修開始直後から女性グループメンバーは少額の積立貯蓄を開始する。研修にて各女性グループが収入創出活動の計画を策定する。グループの貯蓄を元手にグループで収入創出活動を実践する。コミュニティー委員及びホープ・スタッフが活動をフォローする。一定の貯蓄がなされたら、グループメンバーは個人で積立貯蓄から借り入れ (ローン) し、収入創出活動を実践する。女性グループは収入創出活動が活発に行われている当団体の過去の事業地を訪問し、意見交換を行う。</p> <p>当団体撤退後も各郡において女性グループの相互サポート、新規メンバーの加入が行える</p>

よう「SHG協同組合」の設置をする。各SHG協同組合の運営に必要な研修を女性グループリーダーに実施する。また各郡の女性グループに対してはフォローアップ研修を実施し、SHG協同組合の役割や機能、これまでの各女性グループの活動成果などを発表及び意見交換を行う。現地行政機関や他支援機関へ女性グループの活動への理解を図る為、成果やSHG協同組合の活動を共有するセミナーを実施する。

		第1年次	第2年次前半	第2年次後半	第3年次
ウバ・ヤンバラ郡 及び カレ・マロ郡	ソフト	・女性グループ選出 ・各委員会発足 ・同体制構築 ・収入創出活動研修 ・収入創出開始	・近隣事業地訪問 ・収入創出活動研修 フォロー	4郡共通	4郡共通
	ハード	水供給設備設置			
ベレタ郡 及び バガラ郡	ソフト	・女性グループ ・各委員会発足 ・収入創出活動研修	・水供給事業体制構築 ・収入創出活動開始と フォロー ・近隣事業地訪問	・SHG協同組合研修 ・SHG協同組合設 立・体制構築 ・女性グループリー ダーズ研修	・水供給全体評価会議 ・収入創出活動フォロー ・女性グループのフォロー アップ研修 ・女性リーダー能力強化研 修
	ハード		・水供給設備設置		
報告書・マニュアル作成		・ベースライン調査	・中間データ収集 ・マニュアル作成開始		・データ収集・分析 ・マニュアル完成 ・セミナー開催

第2年次(2022年2月～2023年1月)

ベレタ郡及びバガラ郡において第1年次で発足された委員会の体制構築、人材育成を行う。また、両郡の女性グループの収入創出活動の研修を継続し、収入創出活動を開始する。4郡で女性グループの近隣プロジェクトサイト訪問を実施する。各女性グループのリーダーに対して研修を行い、「SHG協同組合」を設立し体制を構築する。水供給事業に関して、ベレタ郡及びバガラ郡において住民参加による水供給設備の設置工事を開始する。

I. 収入創出活動の開始と展開

(ア) 4郡における研修の継続実施

1-12の研修科目を第1年次で終了しているベレタ郡およびバガラ郡の女性グループに対して13-20の研修を実施する(33日分)。ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡で研修科目21を継続実施する(5日分)。

郡	SHG数	人数	日数
ウバ・ヤンバラ郡	16	320	5
カレ・マロ郡	11	220	5
ベレタ郡	10	200	33
バガラ郡	8	160	33

	研修名	ウバ・ヤンバラ	カレ・マロ	ベレタ	バガラ
1	コミュニティー開発				
2	コミュニティー開発における女性の役割				
3	女性グループの基本概念				
4	女性グループの発展過程				
5	女性グループの管理について				
6	女性グループリーダーの選出について				
7	女性グループリーダーの役割と責任				
8	積立貯蓄について				
9	積立貯蓄の種類と仕組み				
10	Social Fundの重要性				
11	女性グループの規則について				
12	積立貯蓄資金利用の仕組み				
13	返済について				
14	ローンの利息について				
15	出納帳(帳簿)について				
16	コンフリクトマネジメントと解決方法				
17	起業精神について				
18	ビジネススキルについて				
19	IGAの計画準備とマネジメント				
20	ネットワーキングについて				
21	女性グループ協同組合(CLA)について				
22	女性連合会(WSLF)について	3年目実施予定	3年目実施予定	3年目実施予定	3年目実施予定
		2年目実施予定			

(イ) ベレタ郡及びバガラ郡における女性グループの収入創出活動開始

1-20の研修を修了したベレタ郡およびバガラ郡の各女性グループが収入創出活動事業計画に沿って事業を開始する。またウバ・ヤンバラ郡とカレ・マロ郡の女性グループは収入創出活動を継続して実施する。

(ウ) 4郡における各女性グループの収入創出活動へのフォロー

ベレタ郡及びバガラ郡及び第1年次から収入創出活動が開始されているウバ・ヤンバラ郡とカレ・マロ郡では引き続きコミュニティー委員とホープスタッフによる各女性グループの収入創出活動の進捗、積立貯蓄と利用の確認を行い必要に応じてフォローを実施する。コミュニティー委員は毎月各女性グループの進捗を報告書としてホープスタッフに提出する。

(エ) 「SHG協同組合」の設立と体制の構築（第3年次に実施予定であったが組合の能力強化期間を十分に確保するため、第2年次に実施する）

各郡に女性グループの活動を取りまとめる「SHG協同組合」を設立し、体制を構築する。「SHG協同組合」は各郡のリーダーによって構成される。

① トレーナー研修（3日）

「SHG協同組合」の設立に向け、SHGアプローチの専門家²を招聘し、SHGの活動のフォローを行なっている4郡コミュニティー委員と郡役人に対して設立の意義や役割の理解を促進するため、オイダ地区の都市サウラ市にてトレーナー研修（3日）を実施する。

² Consortium of Self Help Group Approach Promotors(CoSAP) <https://www.shgconsortiumeth.org/>

②リーダーズ（評価・モニタリング）研修（2日）

実際に「SHG協同組合」を動かす各女性グループから2名（4郡合計90名）及び郡役人（約10名）などに対し、リーダーズ（評価・モニタリング）研修（2日）を実施する。

II. 住民参加型水供給設備の設置と水・衛生委員会など体制構築及びフォローアップ活動

(ア) ベレタ郡とバガラ郡における住民参加型水供給設備の設置

水供給設置に必要な資材の購入、事業地まで運搬を行う。作業は地元の職人とホープスタッフの指導のもと、住民がセメント練り、パイプの溝ほり、資材運搬を担う。源泉保護ボックス、貯水タンク、給水所、洗濯場を設置する。

	郡名	水源	貯水	給水所	洗濯場	パイプライン (km)	裨益者数
		ボックス	タンク				
2 年 次	ベレタ	1	1	9	8	5.3	1,548
	バガラ	1	2	12	10	4.82	1,674

(イ) ベレタ郡とバガラ郡における各委員会の体制構築と人材育成

ベレタ郡及びバガラ郡では、第1年次に発足した各委員会の体制構築を図るため、水・衛生委員会及び郡役人、学校教師に対して、水・衛生管理委員研修を（8日分）を行う。また、メンテナンスチームを10名選出し、水供給設備工事に対して実地訓練を実施する。

給水システム（給水所、貯水タンク、水源保護ボックス、パイプ）の中で、給水所の掃除や管理も担うSHGメンバー及びメンテナンスチームに水供給システム管理研修（5日分）を実施する。

	ウバ・ヤンバラ郡	カレ・マロ郡	ベレタ郡	バガラ郡
水・衛生委員会	69名	47名	31名	37名
メンテナンスチーム	10名	10名	10名	10名
コミュニティ委員	10名	10名	10名	10名
		選出予定		

	ベレタ郡				バガラ郡				日数
	SHG	水管理委員	メンテチーム	郡役人など	SHG	水管理委員	メンテチーム	郡役人など	
水・衛生管理委員研修		69		10		47		10	8
水・供給システム管理研修	200	5	10		160	5	10		5

(ウ) ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡における水供給設備の管理 運営のフォロー

第1年次に設置された水供給設備の管理及び運営に関して、コミュニティ委員やホープ・スタッフが定期会議へ参加し、フォローを行う。

III. マニュアル及び報告書の作成準備及びモニタリングの実施

(ア) 中間データの収集

4郡（ウバ・ヤンバラ郡、カレ・マロ郡、ベレタ郡、バガラ郡）の女性グループメンバーを中心に活動によってどのような変化が表れたか、積立貯蓄状況などを中心にデータ収集を行う。

(イ) 女性グループマニュアル作成の開始

女性グループの構成方法、ホープが実施している研修内容などについてマニュアルの作成を開始する。

(ウ) 現地行政機関による事業中間評価（1回）

南部諸民族州、ゴファ地方、オイダ地区から各4名が参加し事業の中間評価を実施する。現地の評価報告書の指摘事項を参考にして、マニュアルや報告書に取り入れる。

(エ) 内部モニタリングの実施 (4回)

オイダ地区行政担当者及びアディス勤務である事業担当の現地連携調整担当者とモニタリングオフィサーが四半期ごとに事業の進捗と成果を確認するためにモニタリングを実施する。

	直接裨益者数 (女性エンパワメント事業)	間接裨益者数 (住民参加型水供給設置事業)
ウバ・ヤンバラ郡	320人	2,976人
カレ・マロ郡	220人	2,028人
ベレタ郡	200人	1,548人
バガラ郡	160人	1,674人
合計	900人	8,226人

(6) 期待される成果と成果を測る指標

【今期事業達成目標】

4郡の女性グループ(45グループ)において積立貯蓄の増加により、メンバー個人の収入創出活動に対して貸し出しが可能になり、メンバー全員が収入を得る機会を持つことができる。

期待される成果	成果を測る指標および確認方法
1. ベレタ郡及びバガラ郡の事業対象女性は毎日1～2時間費やしていた水汲みの重労働から解放され、他の活動に従事する時間を確保することができる。	指標①: ベレタ郡とバガラ郡においてSHGメンバーの40%に対して聞き取り調査を行い、そのうちの90%が水汲みを往復15分以内で行えるようになる。(ベレタ郡調査対象SHG80人のうち72人、バガラ郡調査対象SHG64人のうち57人) 確認方法: 目視、女性グループへの聞き取り調査(調査対象: ベレタ郡SHG200人中80人、バガラ郡SHG160人中64人)
2. ベレタ郡及びバガラ郡の事業対象女性が水・衛生委員会のメンバーとして参画することによりコミュニティーの女性に対する差別が減る。	指標②: SHGメンバーの60%に対して実施したベースライン調査にて「女性として差別を受けたことがある」と、ベレタ郡(120人中120人)とバガラ郡(95人中94人)の女性から回答があった。2年次の事業終了時に、SHGメンバーの40%に聞き取りを行い「事業を開始してから差別が減ったと感じる」と回答する女性が50%以上いる。 確認方法: 女性グループへのアンケート調査(ベレタ郡調査対象SHG80人のうち40人、バガラ郡調査対象SHG64人のうち32人)
3. ベレタ郡とバガラ郡において女性グループ(18グループ)のグループ収入創出活動の利益及び積立貯蓄によって貯蓄が増加する。	指標③: ベレタ郡とバガラ郡18グループにおいてグループの収入創出活動による利益と毎週の積立貯蓄によって、貯蓄開始時から貯蓄が1万ブル以上になる。 確認方法: 帳簿、個人用貯蓄帳
4. ベレタ郡とバガラ郡において事業対象女性は急にお金を必要とする事態が発生したとき、女性グループのソーシャルファンドから借りることができる。	指標④: ベレタ郡とバガラ郡においてソーシャルファンドの積立がなされ、必要に応じ貸し出しがなされる。 確認方法: 帳簿と個人用貯蓄帳の確認、女性グループへの聞き取り

	<p>5. 4郡の女性グループ(45グループ)において、積立貯蓄の増加によりメンバー個人の収入創出活動への貸し出しが可能となる。</p>	<p>指標⑤：ベレタ郡とバガラ郡においてソーシャルファンドの利用の申し出をして不当な理由で貸し出しを断られた SHG メンバーがいない。 確認方法：帳簿と個人用貯蓄帳の確認、女性グループへの聞き取り調査（全 45 グループ）</p>
	<p>6. 4郡に各「SHG 協同組合」が設立されることにより、女性グループの課題を吸い上げ、共通の課題に対し協働し解決できようになる体制が整う。</p>	<p>指標⑥：4郡にて「SHG 協同組合」が設立された後、各郡の女性グループのリーダーが集会を定期的（2ヶ月に1度）に開催され、共通課題が共有され解決策が協議される。 【確認方法】4郡のリーダーへの聞き取り調査（ウバ・ヤンバラ郡リーダー16人中16人、カレ・マロ郡リーダー11人中11人、ベレタ郡10人中10人、バガラ郡8人中8人）と議事録の確認</p>
	<p>7. 4郡の女性グループに参加している女性たちが個人の収入を得るようになる。</p>	<p>指標⑦：4郡の女性グループメンバー（900人）のうち30%（270人）が収入を得るようになる。 確認方法：帳簿と個人用貯蓄帳の確認、女性グループ（45グループ）への聞き取り調査</p>
<p>(7) 持続発展性</p>	<p>(ア) <u>住民による水供給設備の維持管理</u> 当団体は、「事業は自分たちのためのものであり、自分たちで守っていく」という住民の「オーナーシップ」が事業の根幹であると考えている。そのため、事業開始前の道路の整備、事業実施中に工事作業を住民が負担することを事業開始前に合意したコミュニティーを選定している。また、住民で構成された「水・衛生委員会」が住民全体集会を実施し、住民によって水利用に関わる規定が策定される。規定には水利用料金、料金収集方法、罰則などが盛り込まれるため、住民たちは積極的に意見を出し合い規定を作り上げていく。事業に必要な研修を当団体が提供し住民たちは水の管理に必要な知識と技術を学ぶ。水供給設備に関わる掃除と補修は、事業中にメンテナンスチームが現地訓練を受け技術を習得する。事業3年目に実施される全体評価会議では郡を超えて事業の反省や工夫をお互いに聞き合う場を設け、自分たちのコミュニティーで策定した規定の修正や他郡の良い点を取り入れて改善していく。このように事業中に住民たちが参加決定していくプロセスを経ることで事業終了後も無理なく住民たちのみで水供給設備が維持管理される。 ただし、水質検査やメンテナンスチームが対応できない大規模な修理は、現地行政機関の協力が必要である。オイダ地区水資源事務局など関連行政機関の担当者も「水・衛生委員会」の定例会議及び研修に招聘を予定している。そのことで、事業終了後も現地行政機関の担当者との連絡が容易に行えるようになる。</p> <p>(イ) <u>女性の収入向上によるモチベーションの維持</u> 事業開始時にゼロだった女性グループの積立貯蓄は事業終了時には一定金額貯蓄がなされ、それを元手にメンバー個人の収入創出活動が活発に行われる。個人の収入創出活動の利益は個人の収入となるため、活動に対するモチベーションとなり事業終了後も収入創出活動が維持される。元手となる積立貯蓄が増額できれば、より大規模に収入創出活動を実施することが可能となる。また、女性グループを束ねる「SHG 協同組合」が事業終了後も各女性グループの横のつながりを強化し、情報やサービスの提供、現地行政機関へのサポートの依頼や交渉などの役割を果たす。一人の女性、一つの女性グループでは解決できないような課題に対して解決できるよう女性グループの活動を補佐する体制を構築する。また、リーダーズ研修を受講した SHG 協同組合メンバーが、必要に応じて新規女性メンバーに研修を実施し女性グループの拡大も可能となる。</p>	

(ウ) コミュニティーにおけるジェンダー不平等の軽減と活動への理解の促進

水・衛生委員会において女性グループリーダーが参画し、発言や事業への責任のある役割を担いコミュニティ内での女性に対する差別が軽減される。その結果コミュニティ全体における女性グループの活動に対する理解が促進され当団体撤退後も女性の活動が行われやすくなる。

(エ) 事業の成果と波及効果の実感により住民の継続意欲促進

安全な水の利用、手洗いの実施、家庭トイレの利用により事業終了時には下痢疾患症に罹患しづらくなりことを住民が実感できている。また水汲みのために通学できなかった子どもは水供給設備ができたことで短時間で水汲みが行えるようになる。保護者は制服や教材などの就学費用を捻出できなかった課題も女性グループのソーシャルファンド を利用しお金を借入れできるようになる。こうして通学できる子どもが多くなるなど波及効果を住民が実感できる。この実感が事業撤退後も水供給設備の維持や収入創出活動への活動継続の意欲を促進する。